



# BlackLine で手に入れた**決算早期化**の方程式



“BlackLine 導入の成果を通じて、これまでなかった業務プロセスの評価指標が設定できるようになり、様々な業務改善を行うことができました。ERP のアップグレードにリソースを割けるようになっただけでなく、決算プロセスの中での財務分析や詳細な増減分析など、以前は時間がなくて不十分だった重要な活動に、より多くの時間を割けるようになりました”

**ザ・ダウ・ケミカル・カンパニー 経理部長 パット・ウィズロー**

ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーは、世界各地に数百のグループ会社を展開している。それぞれ数千にのぼる取引を総勘定元帳に記帳しており、グループ全体で約 1,000 人の経理担当者が四半期ごとに 25 万件の勘定照合を行っている。

## 導入前の課題

ダウ・ケミカルは、ある 2 つの要因によって勘定照合のプロセスに過大な負荷がかかるようになり、多少の問題は抱えながらも比較的順調に進められていた決算業務のプロセスを大きく変更しなければならなくなった。

要因の 1 つは、特殊化学品メーカーのローム・アンド・ハースの買収である。フォーチュン・グローバル 500 企業であるローム・アンド・ハース社は多くの子会社を擁しており、この買収によってダウの勘定照合の件数は大幅に増加することとなった。

### 業種

化学

### 使用 ERP

SAP

### 地域

グローバル

### 企業規模

大企業

### 成果

- ・ 節約した時間を分析に活用
- ・ 内部統制の統合と自動化
- ・ 標準化されたプロセスの実施
- ・ モニタリングとトラッキングの強化

2つ目は、ローム・アンド・ハースの買収とその他の小規模な M&A に伴う人員とシステムの統合に加えて、大規模な IT プロジェクトが並行して進んでいたことである。SAP ERP 6.0 への移行に伴い、これまで使っていたメインフレームの SAP R/2 の複数あるインスタンスを段階的に削除するグローバルプロジェクトが始まっていたのだ。すでにリソースの大部分を勘定照合に割いていた同社の経理部門にとって、このプロジェクトはさらなる負担を強いるものであった。

大きな問題は、勘定照合の手順が標準化されていないことだった。照合用のデータは ERP からダウンロードした後、スプレッドシートに入力され、証憑類はファイルサーバやファイルフォルダに保存されていた。勘定照合表は多くのチームで当たり前のように紙で出力されていた。各チームにはそれぞれ独自のやり方があり、各自でスプレッドシートをカスタマイズしていた。そのため、勘定照合表が正しく作成されていることを確認したり、必要な証憑類を探したりすることは、管理者にとって困難なことだった。

同社は、スプレッドシートのフォーマットの統一や証憑類の作成ルールの整備など従来の手作業による照合プロセスを少し変更するだけでは、データの入力ミスなどの手作業ゆえの問題が解決されないと判断した。また、ERP のアップグレードによって会社全体の取引データを見ることができるようになるため、この状況を活かすためには、バンダーに綴じられた紙資料から情報を探し出すような仕事の進め方から脱却する必要がある。ダウ経理部長の帕特・ウィズロー氏は次のように語る。「当社のポリシーとプロセスを再検討したところ、小手先の対応では私たちが必要とするレベルの生産性の向上は実現できないと考えました」。

## BlackLine を選んだ理由

ダウは、勘定照合プロセスの自動化が必要と考え、自動化ツールに求める 10 項目の要件 1 を選定した。特に重視した項目は、導入スピードと使いやすさ、そして、主要な勘定科目での照合の準備や認証のタイムライン等の既存ポリシーとの互換性だった。さらに、従前のシステムである SAP R/2 とアップグレード後の ERP6.0 の両方との互換性も要件に含めた。事業部門間でアップグレードの進捗にばらつきがあっても、影響を受けることなく、勘定照合の自動化を進めたいという意図があったからである。

ダウは、複数のバンダーによる勘定照合ソフトウェアのデモンストレーションを受けた後、SAP の認定パートナーである BlackLine の導入を決定した。

クラウドのセキュリティに対する懸念は、BlackLine がデータを安全に保管するための暗号化手順と全般的なデータセキュリティ対策を示したことですぐに解消された。「当社の IT 担当者は、早い段階からセキュリティ対策を幅広く検証してきましたが、その結果に満足しています。BlackLine が新しいバージョンをどのようにリリースするのか、潜在的なセキュリティ侵害にどう対処するのかは強力なセールスポイントとなりました」とウィズロー氏は語る。

BlackLine の勘定照合モジュールの自動照合機能も、ダウにとって大きな魅力であった。ダウが手作業での照合作業で設けていた様々なルールやポリシーと同様のものがすでに備わっており、システム導入の際に自動認証用のルール設定に時間をかけることなく、短時間で主要な勘定科目の照合を自動化することができたのである。

「プロセスの変更が必要なかったことが、効率性の向上に大きく貢献しました。各種ポリシーがすでにきちんと定義されており、勘定科目の 4 つのグループごとにルールが決まっていたため、BlackLine の運用開始にあたって新たに体系化されたポリシーの枠組みを検討する必要はありませんでした」（ウィズロー氏）

## 導入後の成果

### ■ 自動照合・自動承認が可能に

BlackLine 導入後は、勘定照合モジュールを使って主要勘定科目の 50% 以上、勘定科目全体の 60% 以上の自動照合が可能になった。その結果、作業負荷が大幅に軽減され、各チームは SAP ERP のアップグレードに関連するより付加価値の高い業務に時間を使えるようになった。

### ■ 可視性の向上 :

スプレッドシートを使った勘定照合とは異なり、BlackLine のセントラルリポジトリを使用することで、照合中の勘定科目の何割が予定どおり処理されているか、ポリシーに準拠して処理されているかを簡単に確認することができ、レビューも勘定照合の進捗状況をいつでも確認することが可能になった。

### ■ 監査機能の向上と統制強化 :

自動化と可視性の向上によって、内部監査や外部監査での監査証跡の確認が容易になった。これまで紙で保管されてきた照合表や山のような証憑類が、システムで一元管理されることで、コンプライアンスが強化された。

ウィズロー氏は次のように語っている。「これらの成果を通じて、これまでなかった業務プロセスの評価指標が設定できるようになり、様々な業務改善を行うことができました。ERP のアップグレードにリソースを割けるようになっただけでなく、決算プロセス中での財務分析や詳細な増減分析など、以前は時間がなくて不十分だった重要な活動に、より多くの時間を割けるようになりました」

## BlackLine について

BlackLine は、経理・決算業務を効率化し、決算の早期化と正確性の向上を可能にする経理業務変革プラットフォームとして、4,000 社以上の企業から信頼を集めています。BlackLine はクラウドベースのソリューションや市場をリードするカスタマーサービスを提供し、データやプロセスの統合、反復作業の自動化、可視化によるアカウントビリティの強化を含めた企業の会計システム移行を支援しています。BlackLine が提供する決算業務管理、会計自動化、グループ内企業間のガバナンス構築等のソリューションは SAP の決算業務ポートフォリオに統合され、SAP システムの拡張機能として利用されます。BlackLine ソリューションは SAP ソフトウェアを補完することで、あらゆる業種の企業における会計業務の効率化・高速化を図り、内部統制の強化をサポートします。

BlackLine に関するお問い合わせはこちら : <https://www.blackline.jp/contact/>

経理お役立ちブログはこちら : <https://www.blackline.jp/blog/>